



新たな年の出発に際し

校長 濱畠 昭成

皆さん 明けましておめでとうございます。

今年は干支で言うと子年です。干支で言えば一番最初になります。物事の初めを表すそうで、可能性や変化といったキーワードが当てられるそうです。

さて、今年はオリンピック、パラリンピック YEAR です。一大イベントの年であります。また、鹿児島県では国体も行われます。三島がそしてこの硫黄島、三島小中が活躍する年であります。また、学校としても義務教育学校に転換する年になります。学び舎は変わりませんが、小中の境目がなくなります。三島村立三島硫黄島学園として4月から誕生します。

昨年はギニアの子どもたちと一緒に学習したり体験活動を行ったり、楽しく活動できました。ギニアの子どもたちを知る中で、家の手伝いや兄弟姉妹の世話をすることで毎日学校へ行けないことを知りました。子ども達の学校での様子がビデオで写されました。授業を受けるときの楽しい様子が伝わってきました。



『世界の果ての通学路』という映画があるのを知っているでしょうか。世界には様々な学校があり、毎日 30km の通学路を 4 時間で通う子ども、また猛獣が棲む中、命懸けて毎朝学校に向かう子、生まれつき足が不自由で、弟たちに車いすを押されて片道 4km、1 時間 15 分かけて登校する子、商売をしながら学校に登校する子、世界には学校にいくために想像を絶する道のりを、毎日通っている子どもたちがいることを知りました。どうして彼らはそんなに苦労してまで学校に行くのだろう? 「勉強をして夢をかなえたいから」、「勉強ができる喜びを知っているから」と答えていました。

今、恵まれすぎている環境に満足し当たり前になっている私たち、ギニアの子どもたちとの出会いが教育本来の意味を問い合わせてくれる良い機会になりました。新たなスタートに際し教育の意義を見つめ直す機会となったことに感謝したい気持ちである。



<美しい初日の出>

磯松の向こうから輝く「初日の出」に、硫黄島のすばらしい一年のはじまりを感じました。美しい朝日に感動しました。令和二年も昨年同様、三島小中学校（三島硫黄島学園）をよろしくお願いします。

<松原ギニア大使歓迎会>

松原英夫在ギニア日本大使夫妻を学校に迎えました。「硫黄島に関する発表が分かりやすく、ジャンベも初めて演奏することができました。とても楽しかったです。」と話してくださいました。「ミシマ」というジャンベの曲がギニアとのかけはしをつなげてくれました。



<限界突破！自分越え！>～硫黄島マラソン大会～



「位置について、よ~い、ドン！」で一斉にスタート！！ 白熱したライバル争い、感動のゴール！

師走の硫黄島周回コースを走り抜けました！全員が自分の自己ベストを更新しました。体育の授業だけでなく、毎朝のランニングの積み重ねのたまものでした。当日は、たくさんの応援ありがとうございました。島の皆さんの声援が子どもたちを後押ししてくれました。実大君は、「初めてのマラソン大会で一位になったことが二学期の一番の思い出になりました」と発表してくれました。子どもたちは、自分の限界を超えて、「新しい自分」に生まれ変わるきっかけをつかんだことでしょう。令和二年、ねずみ年に大きな成長を見せてくれることを期待します。

<クリスマス会>

今年も子ども会でクリスマス会を開きました。硫黄島にもサンタさんがやってくれました。唄やクイズ大会など子どもたちの考えたレクレーションで楽しい時間となりました。青年会の皆さん、ご協力ありがとうございました。



<島の文化伝承>

12月の霜月まつり、1月のクセンボを男の子たちが行いました。神聖な儀式を果たしてくれました。



<渡邊真優さんお別れ>

しおかぜ留学生の渡邊真優さんが大阪の方に帰りました。明るい笑顔と行動力、小さい子への面倒見の良さで三島小中学校を盛り上げてくれました。九月踊りなど硫黄島での生活は彼女の心に残っているでしょう。次の学校での活躍や成長を期待しています。

HPには、他の写真も掲載しています。<http://www.mishimamura-sch.jp/mishimakko/>